渋沢栄一年譜

【第1期】

西暦	和暦	年齢	主なできごと	日本と世界の動き
1840	天保11年	0	2月13日、現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれる。	アヘン戦争勃発
1847	弘化4年	7	従兄尾高惇忠から漢籍を学ぶ。	
1854	安政1年	14	家業の畑作、養蚕、藍問屋業に精励。	
1858	安政5年	18	従妹ちよ（尾高惇忠の妹）と結婚。	日米修好通商条約、安政の大獄
1863	文久3年	23	高崎城乗っ取り、横浜焼き討ちを企てるが、計画を中止し京都に出走。	井伊大老暗殺(1860)
1864	元治1年	24	一橋慶喜に仕える。	外国艦隊下関を砲撃
1865	慶応1年	25	一橋家歩兵取立御用掛を命ぜられ領内を巡歴。	
1866	慶応2年	26	徳川慶喜、征夷大將軍となり、栄一は幕臣となる。	長州征伐、薩長同盟
1867	慶応3年	27	徳川昭武に従ってフランスへ出立（パリ万博使節団）。	大政奉還、王政復古
1868	明治1年	28	明治維新によりフランスより帰国、静岡で慶喜に面会。	戊辰戦争（1868～1869）

【第2期】

1869	明治2年	29	静岡藩に「商法会所」設立。明治政府に仕え、民部省租税正となる。民部省改正掛掛長を兼ねる。	東京遷都 東京・横浜間に電信開通
1870	明治3年	30	官営富岡製糸場設置主任となる。	平民に苗字使用許可
1871	明治4年	31	紙幣頭となる。『立会略則』発刊。	廃藩置県
1872	明治5年	32	大蔵少輔事務取扱。抄紙会社設立出願。	新橋、横浜間鉄道開通
1873	明治6年	33	大蔵省を辞める。第一国立銀行開業・総監役。抄紙会社創立（後に王子製紙会社・取締役会長）。	国立銀行条例発布 地租改正条例布告
1874	明治7年	34	東京府知事より共有金取締を囑託される。	
1875	明治8年	35	第一国立銀行頭取。商法講習所創立。	
1876	明治9年	36	東京会議所会頭。東京府養育院事務長（後に院長）。	私立三井銀行開業
1877	明治10年	37	摂善会創立（後に東京銀行集会所・会長）。王子西ヶ原に別荘を建てはじめる。	西南戦争
1878	明治11年	38	東京商法会議所創立・会頭（後に東京商業会議所・会頭）。	
1879	明治12年	39	グラント将軍（元第18代米国大統領）歓迎会（東京接待委員長）。	
1880	明治13年	40	博愛社創立・社員（後に日本赤十字社・常議員）。	
1882	明治15年	42	ちよ夫人死去。	日本銀行営業開始
1883	明治16年	43	大阪紡績会社工場落成・発起人（後に相談役）。伊藤かねと再婚。	鹿鳴館開館式
1884	明治17年	44	日本鉄道会社理事委員（後に取締役）。	華族令制定
1885	明治18年	45	日本郵船会社創立（後に取締役）。東京養育院院長。東京瓦斯会社創立(創立委員長、後に取締役会長)	内閣制度制定
1886	明治19年	46	「竜門社」創立。東京電灯会社設立（後に委員）。 <u>女子教育奨励会</u>	
1887	明治20年	47	日本煉瓦製造会社創立・発起人（後に取締役会長）。帝国ホテル創立・発起人総代（後に取締役会長）。	
1888	明治21年	48	札幌麦酒会社創立・発起人総代（後に取締役会長）。 <u>東京女学館開校・会計監督（後に館長）</u> 。	
1889	明治22年	49	東京石川島造船所創立・委員（後に取締役会長）。	大日本帝国憲法公布
1890	明治23年	50	貴族院議員に任ぜられる。	第一回帝国議会
1891	明治24年	51	東京交換所創立・委員長。	

1892	明治25年	52	東京貯蓄銀行創立・取締役（後に取締役会長）。	日清戦争勃発(1894)
1895	明治28年	55	北越鉄道会社創立・監査役（後に相談役）。	日清講和条約調印
1896	明治29年	56	日本精糖会社創立・取締役。第一国立銀行が営業満期により第一銀行となる。引続き頭取。日本勸業銀行設立委員。	
1897	明治30年	57	澁澤倉庫部開業（後に澁澤倉庫会社・発起人）。 <u>日本女子大学校創立発起人</u>	金本位制施行
1900	明治33年	60	日本興業銀行設立委員。男爵を授けられる。	

【第3期】

1901	明治34年	61	<u>日本女子大学校開校・会計監督。（後に校長）</u> 東京・飛鳥山邸を本邸とする。	
1902	明治35年	62	兼子夫人同伴で欧米視察。ルーズベルト大統領と会見。	日英同盟協定調印
1904	明治37年	64	風邪をこじらせ長期に静養。	日露戦争勃発
1906	明治39年	66	東京電力会社創立・取締役。京阪電気鉄道会社創立・創立委員長（後に相談役）。	鉄道国有法公布
1907	明治40年	67	帝国劇場会社創立・創立委員長（後に取締役会長）。	恐慌、株式暴落
1908	明治41年	68	アメリカ太平洋沿岸実業家一行招待。	
1909	明治42年	69	多くの企業・団体の役員を辞任。辛酉事件 渡米実業団を組織し団長として渡米。タフト大統領と会見。	
1910	明治43年	70	政府諮問機関の生産調査会創立・副会長。	日韓併合
1911	明治44年	71	勲一等に叙し瑞宝章を授与される。	
1912	大正1年	72	ニューヨーク日本協会協賛会創立・名誉委員長。婦一協会成立。	
1913	大正2年	73	日本結核予防協会創立・副会頭。（後に会頭） 日本実業協会創立・会長。	
1914	大正3年	74	日中経済界の提携のため中国訪問。	第一次世界大戦勃発
1915	大正4年	75	パナマ運河開通博覧会のため渡米。 ウイルソン大統領と会見。	
1916	大正5年	76	第一銀行の頭取等を辞め実業界を引退。 日米関係委員会が発足・常務委員。	
1917	大正6年	77	日米協会創立・名誉副会長。	事実上の金本位停止
1918	大正7年	78	渋沢栄一著『徳川慶喜公伝』（竜門社）刊行	
1919	大正8年	79	協調会創立・副会長。	ヴェルサイユ条約調印
1920	大正9年	80	国際連盟協会創立・会長。 子爵を授けられる。	株式暴落（戦後恐慌）
1921	大正10年	81	排日問題善後策を講ずるため渡米。 ハーディング大統領と会見。	
1923	大正12年	83	大震災善後会創立・副会長。	関東大震災
1924	大正13年	84	日仏会館開館・理事長。 <u>東京女学館・館長</u> 。	米国で排日移民法成立
1926	大正15年	86	日本太平洋問題調査会創立・評議員会長。 日本放送協会創立・顧問。	
1927	昭和2年	87	日本国際児童親善会創立・会長。 日米親善人形歓迎会を主催。	金融恐慌勃発
1928	昭和3年	88	日本航空輸送会社創立・創立委員長。 <u>日本女子高等商業学校発起人</u> 。	
1929	昭和4年	89	中央盲人福祉協会創立・会長。	世界大恐慌はじまる
1930	昭和5年	90	海外植民学校顧問。	金輸出解禁
1931	昭和6年	91	<u>日本女子大学校第三代校長</u> 11月11日永眠。	満州事変